

平成29年度第2回沖縄県がん診療連携協議会・緩和ケア部会議事要旨

日時：平成29年10月11日(水)19時より

場所：琉球大学医学部附属病院がんセンター

参加者 8名：笹良 剛史（豊見城中央病院診療部長）
多和田 慎子（琉大病院緩和ケアセンター ジェネラルマネージャー）
中村 清哉（琉大病院緩和ケアセンター 副センター長）
足立 源樹（那覇市立病院放射線科部長）
野里 栄治（北部地区医師会病院外科部長）
朝川 恵利（県立宮古病院地域連携室）
屋良 尚美（県立中部病院外来師長）
増田 昌人（琉大病院がんセンター長）

欠席者 1名：尾崎 信弘（県立八重山外科部長）

陪席 2名：朝倉 義崇（県立中部病院血液腫瘍内科部長）
中島 信久（琉大病院地域医療部特命准教授）
渡邊 道子（がんセンター事務）

《報告事項》

1. 平成29年度第1回緩和ケア部会議事要旨について

資料1に基づき、笹良部会長より、平成29年度第1回緩和ケア部会議事要旨の確認があった。

2. 平成29年度緩和ケア部会委員一覧について

資料2に基づき、笹良部会長より、本会議より県立宮古病院の朝川委員の参加と、県立中部病院の新屋副部会長の後任として屋良委員、陪席として朝倉先生の参加が報告された。

中村委員が、新屋副部会長の後任として推薦され決定した。また、琉大の地域医療部の中島先生が陪席として参加され、次回から緩和ケア部会委員としての参加が決定した。

3. 平28年度第4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会緩和ケア部会について

資料3に基づき、増田委員より、昨年開催された第4回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会・緩和ケア部会の報告があった。

4. 日本緩和医療学会の緩和ケアチーム登録について

(1)平成28年度沖縄県緩和ケアチーム登録一覧

資料4に基づき、笹良部会長より、平成28年度 日本緩和医療学会に登録した県内の緩和ケアチームの報告があった。

(2)平成 27 年度分のフィードバック（琉大病院のみ）

増田委員より、今回のデータ提供は琉大病院のみであるが、今後は、県内の（日本緩和医療学会）登録病院は、登録内容のフィードバックを定期的に行う。また、部会員がいない沖縄協同病院や浦添総合病院、沖縄病院には、オブザーバー参加をお願いする事が決定した。

5. 平成 29 年度日本緩和医療学会学術大会における沖縄県の発表一覧について

資料 5 に基づき、笹良部会長より、平成 29 年度日本緩和医療学会学術大会での県内の発表者の報告が行われ、演題内容も多彩で、今後は県内で研究発表する場を提供したいとの要望があった。

6. 平成 29 年度沖縄県緩和ケアチーム実施研修について

資料 6 に基づき、笹良部会長より、平成 29 年度 9 月 30 日に開催された沖縄県緩和ケアチーム研修（第 1 報）の報告があった。多和田副部会長より、専門職ごとの話し合いが、とても良かったとの反響があった。今後は、年 1 回の開催を目標として行きたい。参加者が 71 名は多いとの意見もあったとの報告があった。中村委員より、アンケート集計の結果も踏まえ、次回の緩和ケアチーム研修会を検討していきたいとの事だった。

7. 平成 29 年度緩和ケア研修会の修了報告

資料 7 に基づき、中村委員より、第 2 回緩和ケア研修会（琉大病院主催）の報告があった。予定していた定員に及ばなかったため、第 2 回の緩和ケア研修会を平成 30 年 2 月に実施するとの報告があった。

資料 8 に基づき、朝倉先生より、第 3 回緩和ケア研修会（中部病院主催）の報告があった。資料 9 に基づき、笹良部会長より、第 4 回緩和ケア研修会（沖縄病院主催）の報告があった。資料 10 に基づき、足立委員より、第 5 回 緩和ケア研修会（那覇市立病院主催）の報告があった。

8. ピアサポータの派遣につて

6 月の緩和ケア研修会の検討会議にて、琉大がんセンターでピアサポータの派遣を行う事が決定したが、今回は各病院で手配を行った。増田委員より、沖縄病院、那覇市立病院で開催された緩和ケア研修会のピアサポータ派遣状況の報告がされた。

9. 緩和ケア研修会の受講率について

資料 12 に基づき、増田委員より、那覇市立病院、中部病院、琉大病院（平成 29 年度 9 月末現在）の報告があった。

笹良部会長より、緩和ケアの領域に関わりの少ない先生方に、緩和ケア研修会の講師を依頼することにより、緩和ケア研修会の理解に繋がるのではないかとの意見があった。

陪席の中島先生より、東北大学での取り組みが報告され、昨年度 1 月は受講率が 22%であったが、今年 1 月・3 月・6 月（3 回）60 人規模で緩和ケア研修会を開催（東北大学のみ対象）その結果、今年の 1 月には受講率が 80%を超えたとの報告があった。

10. 沖縄県がん対策推進計画について

資料 13 に基づき、増田委員より、沖縄県がん対策推進計画についての報告があり、拠点病院だけではなく、県内の専門的医療機関 20 病院にも積極的に参加して頂きたい。また、意思決定支援と在宅支援に関しては、県内全病院で取り組むことが望ましいとの要望があった。また、沖縄県がん対策推進計画に関して、緩和ケア部会委員の意見や要望の提出依頼があった。

《協議事項》

1. 痛みのスクリーニングと結果のフィードバック及び主治医（チーム）の行動変容について

(1) 琉大病院におけるスクリーニングとフィードバックの状況について

多和田副部長より、琉大病院のスクリーニング及び、フィードバックの状況についての報告があった。現在は、疼痛の患者のみがリストアップされているが、今後は疼痛以外の社会的・心理的苦痛のある患者のリストアップも行うため、システム変更が行われているとの報告があった。また、セーフマスターについて、介入患者のアセスメントやチームの回診記録が行われているとの報告があった。「緩和ケア」の名称に関して患者の受容が様々であるため、「痛みのコントロールをするチームです」など患者に合わせて対応しているとのことだった。

陪席の中島先生に東北大学での取り組みについての質問があった。中島先生より、緩和ケアの名称に関して「緩和ケア」ではなく「痛みを取るためのチーム」や、精神科ではなく「気持ちの辛さを取るチーム」など患者の気持ちに合わせて慎重に扱う必要がある。また、今後は方向性を広げるために患者との書面上の関わりが必要と考えている。診療報酬の加算を行う場合は書面での対応となるが、患者の要望に沿っていれば、問題はないとの報告があった。

(2) 南部病院及び豊見城中央病院におけるスクリーニングとフィードバックの状況について

笹良部長より、豊見城中央病院における苦痛のスクリーニングの現状の報告が行われた。外来患者を対象に、看護師が中心となって iPad でのスクリーニングを実施している。リアルタイムにフィードバックができ、集計作業が容易に行える利点はあるが、スクリーニング実施に関しては、他部門の理解を深めるなどの課題が残っているとの報告があった。

(3) 那覇市立病院におけるスクリーニングとフィードバックの状況について

足立委員より、那覇市立病院の状況報告があり、外来スクリーニングに関しては、外科のみで実施しているが、特に進展はない。現在は医師へのフィードバックをどの様に行うか検討中であるとの報告があり、次検討会議には、担当者と参加し詳細の報告を行いたいとの事だった。

(4) 県立中部病院におけるスクリーニングとフィードバックの状況について

屋良委員より、中部病院における入院時と退院時に実施されているスクリーニングとフィードバックの件数等の報告がなされた。電子カルテを導入して約 1 年となり、データの蓄積は行われているが、抽出作業が追い付いていない。今後は、外来を中心にフィードバックも行っていきたいとの報告があった。

その他、中島先生より、東北大学スクリーニングのアセスメントについての説明があった。東北大学では、外来患者に対し、担当医が直接判断し治療を実施しており、入院患者に対しては、病棟看護師が担当している。その中で、疼痛以外の身体症状に問題点が隠れていることが多いため、悪心・嘔吐、倦怠感、呼吸困難、せん妄、不眠に症状を絞り込みスクリーニングを行っている。現在は、問題思考型システムとしてホスピス・緩和ケアにおける評価尺度 STAS (Support Team Assessment Schedule 以下: STAS) の 5 段階評価を使用しているが、今後は、POS (Palliative care Outicom Scale 以下: POS) を取り入れることにより、家族評価・医療者評価の総合評価が可能となるとの報告があった。

2. 施設相互訪問について

増田委員より、施設相互訪問に関しては、患者に対し直接的な取り組みではないが、もしも緩和ケア部会で行いたいという場合は、事務局がサポートを行う。

多和田副部会長より、初めての施設訪問は不安があるが、今回の緩和ケアチーム研修会で顔が見える関係が築け、施設相互訪問のきっかけになるとの意見があった。

3. 平成 29 年度の緩和ケア研修会について

(1) 平成 29 年度緩和ケア研修会の報告

資料 16 に基づき、笹良部会長より、平成 29 年度開催予定の豊見城中央病院 (11 月開催) ハートライフ病院 (1 月開催) 琉球大学医学部附属病院 (2 月開催) の報告があった。

(2) P E A C E (緩和ケア研修会に向けて) について

資料 17 に基づき、増田委員より、今年度中にプログラムを作成するが、次年度よりの開始は指導側の混乱も考えられる為、これまでのカリキュラムからの移行期間が必要である。今後、開催予定である豊見城中央病院 (11 月)、ハートライフ病院 (1 月)、琉球大学医学部附属病院 (2 月) の緩和ケア研修会では移行期間を限定し、告知をする事が決定した。

4. 緩和ケア情報シートの見直しについて

多和田副部会長より、現在作成中で進展はないとの報告があった。

5. 次回の緩和ケア部会の開催につて

平成 29 年度 12 月 13 日水曜日の午後 7 時から開催予定とし、遠方からの委員の方を考慮し、予備日を 12 月 20 日水曜日の午後 7 時からとした。

6. その他

増田委員より、『がん患者は痛みがあっても痛があることを医師に伝えられないのでその状況を配慮して対応してほしい』との患者会からの要望が述べられた。

笹良部会長より、緩和医療学会の代議員の選挙があり、沖縄県からは、笹良部会長と増田委員が立候補しているとの報告があり、協力をお願いされた。